

令和7(2025)年度 入学宣誓式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。

また、ご列席くださいましたご家族の皆さまにも、お祝い申し上げます。誠におめでとうございます。そして、ご来賓の皆さまにおかれましては、ご多用の中ご臨席を賜りまして、ありがとうございます。心からお礼申し上げます。

新入生の皆さんが入学した山陽学園大学、山陽学園短期大学、山陽学園大学大学院、山陽学園大学助産学専攻科は「古くて新しい学校」です。本学は、時代と社会の要請に応えながら進化を続けてきた、新しい高等教育機関です。そういう意味で、本学は最も進んだ学校、新しい学校です。皆さん方には、それぞれの専門分野で最先端の学びに取り組み、実践的な力を身につけてもらいます。しかし、「新しい、最も進んだ高等教育機関」である本学は、同時にどこか懐かしい、古い学校でもあります。

山陽学園が創立されたのは、1886年(明治19年)。本学は、長い伝統のある学園です。学園の基礎を築いた上代淑(かじろよし)先生は、生徒と教職員に「愛と奉仕」の精神を説かれ、その教えが本学の教育理念として脈々と受け継がれています。

「愛と奉仕」という理念をどのように具現していくか、このことは山陽学園で働く者、教える者、山陽学園で学ぶ者の一人ひとりに等しく課せられた実践的課題です。本学はこの「愛と奉仕」という教育理念に基づく人間教育をずっと行ってきました。これからも行っていきます。だから山陽学園は、「いつまでも変わらない、古い学校」なのです。

それぞれの専門領域で最先端の学びを深め、実践力を身につけると同時に、そのもてる力をもって、社会のために、共に生きる人たちために貢献できる人「愛と奉仕」の体現者を世に送り出すこと。それが「古くて新しい学園」である本学のミッションであります。

さて、人間のあり方、生き方としての物語についてこれから話します。私たちは、1人ひとりが「私の人生」という物語を生きています。この「私の人生」という物語の中には、いくつもの小さな物語が入っています。例えば、「私の山陽学園時代」という物語が。そして、私たちは山陽学園に入学した時から、この「私の山陽学園時代」がいずれ終わることを知っています。だからこそ、「山陽学園時代」という「かけがえのない物語」を、悔いが残らないように大切に過ごしたいと思うのです。皆さんは、一人ひとりが「私の山陽学園時代」という物語の物語作家であり、同時にこの物語の主人公として生きています。私は、山陽学園に入学された皆さんが、この「私の山陽学園時代」というかけがえのない物語を「成長の物語」にされることを願っています。

では、「私の山陽学園時代」を「成長の物語」にするためには何が必要でしょうか。実は、「山陽学園時代」という物語の中には、さらにいくつもの小さな物語(エピソード)が入っており、入れ子状になっています。それぞれの物語には、主人公以外のさまざまな人物が登場します。さまざまな登場人物との出会いと豊かな交流が、成長につながる物語には必要です。

「私の山陽学園時代」という物語の展開は、多様な人々との偶然の出会いによって左右されます。新たな出会いが得られる場所や機会に臆することなく身を投じていく積極性を、新入生の皆さんには期待したいと思います。

さらに加えて、「山陽学園時代」という物語を「成長の物語」にするためには、そこに必ず、何らかの「挑戦」という要素が必要です。挑戦とは、「困難に立ち向かうこと」です。こちら側から困難に立ち向かっていけば「あえて挑む」ことになり、困難の方から、こちら側にやってくれば「受けて立つ」ことになる。いずれにせよ、挑戦とは「困難から逃げるのではなく、困難に立ち向かうこと」です。

新入生の皆さんには、山陽学園という成長の舞台でさまざまな仲間と出会い、豊かに交流し、幾多の困難にひるむことなく、積極果敢に挑戦してほしいと思います。

最後になりましたが、ご来賓の皆さまとご家族の皆さまには、これから「山陽学園時代」という「成長の物語」を生きる学生たちを、引き続き「応援」してくださるようお願い申し上げます。

新入生の皆さんの一人ひとりの「山陽学園時代」が、すばらしい仲間と出会い、果敢に挑戦したことで、充実した「成長の物語」となることを祈念して、式辞といたします。

令和7（2025）年4月1日

山陽学園大学・山陽学園短期大学 学長 毛利 猛